

2017年 社長(杉森 務)年頭挨拶について

記者各位

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

本日、JXエネルギー本社(東京都千代田区)にて行われました、当社社長 杉森 務のグループ社員に向けた「年頭挨拶(要旨)」を下記の通りお知らせいたします。

記

本年4月の東燃ゼネラルグループとの経営統合により、統合持ち株会社「JXTGホールディングス」および統合エネルギー会社「JXTGエネルギー」が誕生する。JXTGグループは国際的な競争力を備えたアジア有数の総合エネルギー・資源・素材企業グループとしての発展を目指す。JXTGエネルギーはその屋台骨として、社会の根幹をなすエネルギーの安定供給を確保し、持続可能な社会の実現に向けて責任を果たすという社会的使命はますます大きくなる。間近に控えた経営統合に対する私の思いを申し上げる。

1. 経営統合に至った背景

わが国の石油製品需要は年率2%程度の減少が続くと見込まれるなど、事業環境は厳しさを増している。当社はこれまでも石油精製販売事業の競争力強化に努めるとともに、将来の成長戦略も描いてきた。しかし、石油製品需要の減少などの外部環境要因はこれまでの延長線上での自助努力だけでは克服しきれぬものではなく、両社の力で抜本的な変革を通じて対処することが最善であると判断した。

2. 経営統合後に取り進めるべき重要な事業改革

(1) 製油所・製造所の安全・安定操業に関する改革

両社のノウハウを活用し、すべての製油所・製造所に横串を通す操業管理システムを導入する。製造業としての存立基盤である安全・安定操業を確保するためには最善の方策であり、現場の日頃の努力を無にすることなく、確実に成果に結びつけるものであると確信している。

(2) 最適な製油所ネットワークの確立

製油所の統廃合は慎重に対処すべき大変難しい問題ではあるが、圧倒的な競争力を早期に確立するためには避けて通れない。数年以内に製油所の統廃合も含め、石油製品の最適な供給体制の確立を目指す。

(3) 新しいIT基盤としての統合基幹業務システム(ERP)の構築

統合基幹業務システム(ERP)を早期に導入することにより、効率的な事業運営基盤を整備する。ERP導入にあたっては、各部門の業務の進め方を抜本的に見直すことが必要となる。変えたくても変えられなかったものを変える絶好のチャンスと捉え、柔軟な発想で業務改革を進めてほしい。

この他にも着手すべき改革は多くある。それらを含め、3年以内に1,000億円以上の統合シナジーを実現する。

3. 将来を見据えた変革

JXTGエネルギーのキーワードは「変革」である。経営統合によって、早期に収益基盤を強固なものとしたうえで、将来への成長戦略をさらに確たるものに仕上げていく必要がある。新会社の社員全員が会社の方向性を共有したうえで、両社の有する強みを踏まえてゼロベースで議論を交わし、新会社として、必要とあれば変えるべきものは変えていくというプロセスが重要となる。このような変革を進めるにあたり、私が特に大切であると考えている「人材の育成」と「対話の促進」について申し上げる。

(1) 人材の育成

幅広い視野を持って多面的に物事を考えることができる人材やグローバル人材、技術の伝承を着実に進め、安全・安定操業を確たるものとしていく観点からの人材など、変革に対応できる人材が大切である。こうした優れた人材を確保し、育成するためには、その素地づくりとしてダイバーシティを推進する必要がある。性別、年齢、国籍などは勿論、育児や介護のための時間的制約にも関係なく、すべての社員が持てる能力をフルに発揮して会社に貢献できるような職場環境を早期に実現していきたい。

(2) 対話の促進

風通しの良い社内環境づくり、組織の一体感醸成に向け、日頃から社員一人ひとりが対話を心掛けてほしい。まずは挨拶を交わすという初歩的なところから意識してほしい。

4. 最後に

当社は日本の石油業界のリーディングカンパニーとして、あらゆる面で社会の規範とならなければならない。そのためには「誠実な会社」であり続けることが必要である。当社のビジネスがお客様からの信頼によって成り立つことは変わらないため、今後もお客様に対する誠実な姿勢を忘れてはならない。

以 上